

ニューカッスル大学語学研修 参加報告書

外国語学部英米学科 2 年 (参加時)

私は、2月11日から3月15日までの約5週間（日本出発は2月10日、日本到着は3月17日）、オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるニューカッスル大学の語学研修プログラムに参加しました。今回の参加報告書では、主に「授業・学校生活」「放課後・休日」の2点に分けて、オーストラリアでの経験を紹介したいと思います。

1. 授業・学校生活

ニューカッスル大学の語学研修プログラムは、渡航前に受験したレベル分けテスト（4択の文法問題と英作文が2つの計60分間のテストでした）の結果に基づいて「Elementary」と「Upper Intermediate」の2つのクラスに分けられました。私たちが参加した際は、Elementary が2クラス、Upper Intermediate が4クラスに分けられており、私は Upper Intermediate の104クラスに配属されました。私の104クラスでは、中国からの留学生・サウジアラビアからの留学生・モンゴルからの留学生と日本人留学生で構成されており、かなり多国籍クラスだったと感じます。

授業は週ごとにテーマが決められており、歴史・環境・交通・動物などのテーマに基づいて英語4技能を磨くといった内容でした。そのため毎週英作文が2回あったり、毎時間必ずグループディスカッションがあったりと英語をアウトプットする機会がかなり多く、慣れるまでは授業を受けるだけでもかなり体力を消費していました。しかしその分英作文のフィードバックが毎回きちんとあり、英作文の構成の基本や正しい文章のつなげ方など丁寧に指導や添削をしていただき、書くごとに自身の英作文が簡潔にかつ一貫性を持ったものに上げることが出来るようになるのを実感していました。英作文以外にももちろん、毎回のグループディスカッションを通じて自身のスピーキング力を向上させる機会や、国籍の異なる学生との交流を通して、自国の文化で得た考えとは異なる新たな視点を知ることが出来たことなど、英語力と同時に様々な知識や価値観を学ぶことが出来ました。

また、多国籍クラスであったことの利点に、リスニング力の向上や自身の英語に対する姿勢が変化したことが挙げられます。まずオーストラリア自体かなり訛りの強い英語を話す国であり、Aussie 英語という言葉が存在するほど発音やアクセントが今まで触れてきた英語とは異なります。そのため、オーストラリアの方と会話をするだけでもリスニング力の向上に繋がるのですが、中国やサウジアラビアの方の話される英語などにも触れる機会があったので、癖のある英語にも慣れてきてリスニング力の向上に繋がりました。このことに加え、中国の方やサウジアラビアの方の英語に対する姿勢にも刺激を受けました。私含め多くの日本人学生は、完璧な英語でないと伝わらない、文法に間違いがあると恥ずかしいと感じてしまう部分があり、あまり自信を持って英語を話せなかったのですが、中国人学生やサウジアラビア学生は間違いを恐れて英語を使わないのではなく、むしろ使っていく中で間違

っている部分を学ぶという私たち日本人とは異なる姿勢で臨んでおり、とにかく間違っても英語で発話しアウトプットを繰り返していました。彼らのそんな姿から、文法が間違っても伝わるのだということや、間違いは恥ずかしいことではないのだと学びました。間違いを恐れて何も発話しないより、彼らのようにアウトプットをする方が成長に繋がることを学び、良い刺激を受けました。

2. 放課後・休日

私は学校までバスで1時間ほどの場所にあるフレッチャーという街に住むターニャさんのお宅にホームステイをしました。私のホームステイ先は、一緒に語学研修に参加した北九大生の中でも最も離れていたもので朝はかなり早い生活で、放課後も最終のバスが少し早めだったので、常に時間を意識した生活でしたが、放課後や休日を通じて多くの経験をする事が出来ました。放課後はホストファミリーと過ごしたり、北九大の友人と買い物に行ったり、オーストラリアで出来た友人と遊びに行ったりと充実した日々を送りました。休日には北九大のみんなでシドニーへ電車で行き、ブルーマウンテンやタロンガ動物園、オペラハウスやルナパークなど様々な施設に行き、ホテルを予約して一泊するなどオーストラリアを堪能しました。

私はオーストラリアで多くの経験をする事が出来ましたが、その中でもオーストラリアでできた友人であるヘイデン君との出会いが一番印象に残っています。ヘイデン君とは、ホストマザーがサッカーの試合を見にサッカー場へ連れて行ってくれたときに会いました。私はサッカーの試合を見に行くことをホストマザーに提案された際、サッカーのルールを知らなかったため純粋にサッカーを楽しめないと思い、初めは断ろうと考えていました。しかしせっかくなので提案してくれているということと、ホストファミリーとの時間を大切にしたいという想いもあり行くことにしました。

私がサッカー場に着き、ホストマザーとサッカーの試合を見ている最中に、たまたま隣に座っていたのがヘイデン君でした。ヘイデン君は日本とオーストラリアのハーフで、日本語が堪能だったこともあり、私が試合中に「惜しい！」と言ったことがきっかけで私に話しかけてくれました。そこから会話が弾み、私たちも驚くほどに気が合い意気投合をしました。そして出会った日の週末と一緒にコタラという街の Westfield というショッピングセンターに遊びに行くことになりました。ヘイデン君とは遊んでいる最中は英語と日本語を交えて話し、お互いの文化の違いやお互いの言語のスラングを教え合い、遊びだけでなく勉強面でも支え合いました。ヘイデン君と過ごす時間は本当に楽しいもので、一緒に色々な場所に行けてたくさん思い出が作れました。

私がこのレポートを書くに当たって最後に皆さんにお伝えしたいことは、「何事にも前向きに挑戦してみる事の大切さ」です。今回の私のヘイデン君との出会いも、あのまま不安に感じてサッカーの試合に行く提案を断っていたら無かったですし、私自身今回のプログ

ラムに参加することも締め切り限界まで悩んでいたため、あのまま悩んで参加していなかったらこうして多くの出会いや経験を得ることも無かったことになります。私は今この語学研修プログラムに参加して後悔は無いですし、あのとき勇気を出して良かったなと前向きな感情のみが残っています。留学や語学研修プログラムのみならず、少しでも挑戦してみたいと思うものがあれば、勇気を出して一度挑んでみるべきだと思います。皆さんにもそうして頂きたいですし、私自身もこれからもそうしていきます。今回の語学研修プログラムは私にとってかけがえのない経験です。



ニューカッスル大学 海外語学研修参加報告書

外国語学部国際関係学科 1 年（参加時）

私は春休み中にオーストラリアのニューカッスル大学での海外語学研修に参加した。5週間という短い間だったが大変充実した時間を過ごすことができた。

学校生活については、様々な国籍の人と関わることができた。授業は 1 日 4 時間あり、午前と午後、それぞれ 2 時間ずつであった。私のクラスは日本人が 5 割程であり、中国の方やサウジアラビアの方もいた。授業の内容としては、週ごとに変わるトピックについて、グループやペアで話し合ったり、ミニプレゼンを行ったりと、実践的なものが多かった。授業はすべて英語で行われ、日本人同士であっても必ず英語で話し合いをしていた。また、授業ではエッセイの書き方も教えていただき、課題として出されたエッセイの添削も丁寧にいただいた。さらに、最後の週には最終プレゼンを行った。授業で学んだことを活かして、PowerPoint を作り、ペアの人とで 4 分程のプレゼンを行った。

昼休憩は、積極的に他の国籍の人と一緒に過ごしていた。昼休憩は 2 時間もあつたため、非常に有意義に過ごすことができた。オーストラリアに来た目的や夢、それぞれの家族や国の文化など、様々な話をすることができた。授業の中では知ることのできないことを知り、リスニング力やスピーキング力を鍛えることにも繋がり、とても充実した時間だった。また、毎週月曜日の昼休憩に開催される Speed Conversation という活動にも参加した。オーストラリアの方や、中国の方と、テーマに沿って会話をするというものだった。自分の国や故郷の歴史、故郷の好きな場所などについて話した。少人数であったため、会話もしやすく、新たな知識を得ることにも繋がった。

放課後は、毎週月曜日と木曜日に、Japanese English Club に参加していた。日本に興味を持つオーストラリア人が多く、私のつたない英語も一生懸命理解しようとしてくれる方が多かった。基本的には会話をすることが多いが、UNO をしたり、折り紙を作ったりもした。国籍が違っても、一緒に楽しめることに嬉しさを感じた。



ホストファミリーは本当に優しい方だった。オーストラリアの方で、ホストマザーとホストファザー、娘さんとその旦那さんの 4 人であった。私は、家族の会話についていくのに必死だったが、私が理解できていない時は、わかりやすい言葉で説明してくれたり、ジェスチャーを使ってくれたり、非常に親切にしてもらった。特にホストマザーは、私が授業のスピードについていけないからと悩んでいた時も、温かく元気の出る言葉をたくさんくれて、いつも私のことを気にかけてくれていた。また、毎日おいしいご飯を作ってくれ

たり、私が気に入っていたオムレツやマフィン、クッキーの作り方も教えてくれたりした。週末には、ファームやビーチ、ショッピングモールにも連れて行ってくれた。ファームではカンガルーに餌をあげたり、コアラを近くで見たりできた。ホストファミリーのおかげで、素敵な思い出をたくさん作ることができた。



週末は、平日にはできない経験をたくさんすることができた。シドニーには2回行き、オペラハウスやハーバーブリッジ、タロンガ動物園などに行った。特に印象に残っているのはブルーマウンテンだ。幼いころからブルーマウンテンを見るのが夢だったため、自然の美しさを感じ、本当に感動した。また、週末に Japanese English Club の人たちと過ごすこともあった。クラブの人たちとカフェに行ったり、サンドサーフィンをしたりできたのも、良い思い出である。



私はこの海外語学研修を通して、学んだことが2つある。1つ目は、挑戦する気持ちを持つことの大切さだ。私はオーストラリアを去る日、やり残したと思うことがないようにしようと日々過ごしてきた。特に、過ごしたい人とたくさん過ごし、話したい人とたくさん話そうと思って、積極的に声をかけた。また、昼休憩の活動や放課後のクラブ活動も、自ら参加したことで、新たな発見や人との繋がりを得ることとなった。最後の日に後悔を残したくないという気持ちからのこの行動は、私の視野や世界を大きく変えてくれた。2つ目は、周りの人に感謝する気持ちを持つことの大切さだ。5週間の間で、自分の英語力の低さに何度も悔しさを感じ、最後まで頑張れるか不安を感じたこともあった。しかし、

ホストファミリーや先生、クラスメイトなど、多くの人の温かい言葉と支えのおかげで、私は最後まで諦めずに、オーストラリアで充実した生活を送ることができた。周りの人の存在が私を大きく成長させてくれた。

この海外語学研修は、さらなる英語力の向上と日本や世界の文化や社会情勢についての学びを深めていきたいという気持ちを強くさせるきっかけとなった。これらを十分に習得できた時、私はもう一度オーストラリアに行きたい。ホストファミリーや先生、クラスメイトと、今回よりももっと話ができるよう、この海外語学研修で学んだことと今の気持ちを忘れず、継続的に勉強し、成長していきたい。

参加報告書

国際環境工学部 環境生命工学科 2年(参加時)

今回、私はオーストラリアのニューカッスル大学での語学研修に参加させていただきました。この留学は私にとって初めての海外渡航で、英語も得意な方ではないため渡航前は不安しかなかったのですが、毎日が充実していて本当にいい留学になったと感じています。今回の留学では、英語力の向上はもちろん、人脈を広げること、また環境について日ごろ学んでいるためオーストラリアの自然にたくさん触れることを目標としていました。

まず、授業では私は一番レベルの低いクラスに分けられました。授業の内容としては、かなり初歩的なものでした。今回の留学での最も大きな後悔はこのことだと思います。できればもう一つ上のクラスでよりレベルの高い学びを得たかったので、留学前の英語への取り組み方を反省しました。しかし、このクラスでも様々なことを学ぶことができたので、満足しています。中国人やサウジアラビア人、カンボジア人など多くの国籍の違う人たちと友達になることができ、授業だけではなく休み時間なども常に会話をしたことが、英語力が伸びた一番の要因かなと思います。特に、サウジアラビア人との会話が印象的で、language centerでの研修を終えた後、看護や放射線などそれぞれの専門分野をさらに学ぶという志の高い人たちだったので、いい刺激を受けました。

また、人脈を広げたいということで授業以外でもたくさんの人と話しました。2週目には新入生を歓迎する学祭が3日間行われ、そこで用意されていたフットサルコートで初対面の人たちに混ざりサッカーをしたり、アームレスリングをしたりし、このイベントを通して多くの人と関わることができました。さらに、私は大学のジムに入会し、そこでもよく会う人たちとトレーニングの話が盛り上がり仲良くなれたので良かったです。他にも English Japanese Clubにも参加し、そこでも多くの人と交流できました。この研修期間に出会った人達の多くは、今でもSNSなどでつながっているので、このつながりをこれからも大切にしていきたいと思っています。

学外では、土日などの休みを使って、“迷ったらやる”をモットーに様々なことにチャレンジしました。まず、最もエキサイティングなイベントだったのはスカイダイビングです。これは、渡航前からやりたいと思っており、15000フィートの雲よりもさらに高いところからダイブしました。上から見るニューカッスルの景色はすごくきれいで、怖さを忘れるくらいの感動がありました。別の日には、授業前にサーフィンもしました。朝8時からのサーフィンのレッスンに申し込み、他の参加者とともにサーフィンを教えてもらいました。コーチにサポートしてもらいながらですが、何度か波に乗ることができ、サーフィンの楽しさを知りました。でも、波を選ぶことやボードに立つタイミングが難しかったです。イギリスから旅行で来ている参加者とも、仲良くなれました。また、ニューカッスル港でのカヤッキングにも申し込み、参加してきました。ニューカッスル港をカヤックで回りながら、ニューカッスルの歴史などをインストラクターの方が教えてくれました。ニューカッスルはかつて炭鉱で栄え、この港から日本などの国々に輸出をしていて、今は小麦を世界に向けて輸出しているそうです。しかし、この説明が私の英語力ではすべてを理解することができず、自分の英語力のなさを

痛感した瞬間でもありました。

さらに、オーストラリアの自然に触れたいということで、私はニューカッスルにある国立公園を3つめぐりました。Glenrock State Conservation Area は、かなり広大な面積の国立公園で公園内の植物や生物を管理していました。一般の人も気軽に足を運べるように、ウォーキングコースやサイクリングコースが整備されていたのが印象的でした。Shortland Wetlands Area では、スタッフに公園の詳細を聞くことができました。ここは人口的に池を作ったり、植林をしたりしたことで、生態系が時間をかけてできていき、今となっては様々な鳥や昆虫などが住み着くようになったそうです。この公園の管理はボランティアの人だけで行っていると聞いて、オーストラリアの自然に対する意識の高さを感じました。最後に行った Blackbutt Reserve は私が最も気に入った場所で、コアラなどオーストラリアの固有種が数多く保護されており、それらを見ることができます。ここは人も少なく、落ち着いた場所なのでニューカッスルに行く方にはぜひ行ってもらいたいと思います。

そしてホームステイに関しては、ホストファミリーに本当によくしてもらい、楽しいばかりのホームステイでした。ホストマザーやファザーと日本や自分の地元について話したり、オーストラリアについて聞いたりしっかりとコミュニケーションが取れたので良かったです。また、ホストファミリーはインドネシア出身で、インドネシア料理も作ってくれ、インドネシアについても話してくれました。特に仲良くなったのは双子の男の子たちです。年が私の弟と同じだったこともあり、自分の弟のような感覚ですぐに打ち解けることができました。筋トレやアニメ、スポーツの話などをよくしており、会話の中で私が理解できてない文や単語は詳しく説明してくれました。最終日には、彼らがバスケットボールしにつれて行ってくれ、一緒にプレーすることができたことが、個人的にはうれしかったです。

今回の語学研修で多くの人と出会い、様々な貴重な経験ができました。その中で私が感じたことは、日本人はもっと世界に目を向けるべきだということです。オーストラリアでは本当に多くの国籍の人が見受けられました。ニューカッスル大学にも世界中から医学や看護学、経済学などの学問を学びに来ていました。Language Center で英語を学んでいる人達もほとんどが英語を習得後、他の学部に進むと言っていました。留学で英語だけを学んで帰るのはおそらく日本人留学生だけだったと思います。日本人の多くは日本の大学に通って、日本で就職というのが当たり前だと感じていると思います。私も海外の大学への進学や海外での就職は考えたこともありませんでした。しかし、海外で学び海外で就職している人達を目の当たりにして、衝撃を受けたとともに、自分も生活の拠点を国内に限る必要はないなと思いました。今後は海外でやりたいことを見つけた時に困らないように、英語の勉強は引き続きやっていきたいと思っています。また、世界とのつながりを持っておきたいので、オーストラリアで知り合った人たちとの関係を大切に、日本でも海外の方とつながりを持てるように努めていきます。今回の留学で身に着けた行動力で、今後もいろいろなことにチャレンジしていきたいと思っています。

